



▲岡本町・南大窪町の町並み

歴史は未来の羅針盤

温故知新

『近江日野の歴史』第五卷「文化財編」は、第一章「美の香り」第二章「匠の文化」第三章「住の演出」第四章「地に根ざす」の四章からなり、各公民館や教育委員会において一冊四、〇〇〇円（税込み）で販売しています。ぜひお買い求めください。

歴史を刻む景観・町並み

さらに別棟に座敷や蔵を建てたり、武家屋敷では式台や門を構えるなどの特徴を見ることが出来ます。

第三章では「住の演出」と題して、日野町の建築と町並みについて取り上げます。

集落の中にあるお寺や神社、いつも通る道の脇にある古い家などは、普段何気なく目にする建物や町並みですが、その構造や仕組みをつぶさに見ると様々な歴史を知ることが出来ます。また、地域の人びとによって大切に守り受け継がれてきたそれらの建物や町並みなどの景観は、人びとの共有財産であり身近な文化財でもあります。

本章の第一節「神仏と人びとの住い 建築」では、社寺・民家などの建築物について、第二節「蒲生氏と日野商人の故郷 町並み」では、日野町の中心部を形作る町並みについて、それぞれの歴史や具体的な構造などを、詳細な図面や絵図を用いて解説しています。

信仰と生活の空間・建築

日野町には、寺院が約九〇、神社が約五〇、計一四〇か所余りの社寺があります。

重要文化財に指定されている黄檗宗正明寺本堂（松尾）は、後水尾天皇から賜ったという御所清涼殿の古材が使われており、黄檗様式には見られない寄棟造松皮葺の優美な屋根が印象的です。また、町内で最大規模の伽藍を持つ真宗大谷派本誓寺（日田）や、浄土宗寺院としては珍しく本堂に土間を設えた信楽院（村井）など、町に

は注目すべき寺院が多くあります。

神社では、十七世紀後期の建立である熊野神社（中山）をはじめ、押磐神社（音羽）・大屋神社（杉・長寸神社（中之郷）などが古い本殿を残しています。蒲生氏代々の庇護を受けた馬見岡綿向神社（村井）の本殿は、江戸時代に日野商人の信仰心と財力により良質な材と優秀な棟梁や職人の手で造られた貴重な遺構で、県指定文化財に指定されています。

一方、日野町の民家は、農家・町家・日野商人本宅・武家屋敷が並存しています。町の中心部や御代参街道に面した集落には切妻造瓦葺の家が多く、その周辺地域ではかつては草葺であった入母屋造の家が目立ちます。

また、いづれの住宅も間取りは、土間と田の字型の床からなる四間取整形型という伝統的な農家の様式が基本となっています。しかし、日野商人本宅では部屋数を増やし、

日野町の中心部である西大路・村井・大窪・松尾に広がる町並みは、中世において蒲生氏の城下町として形成され、江戸時代には在郷町として発達し、今に至っています。

町並みの景観は、本通りを中心に東西に長細く、町割りは通りを挟んだ両側の家々をひとつの町とする両側町で、天文三（一五三三）年の絵図にもその姿が描かれています。

また、町並みの景観の大きな特徴として、建ち並ぶ家々は切妻造平入りであり、板塀を敷地前面に廻らせていること、さらにその板塀には日野祭の渡御行列や曳山巡行を観覧するためだけの棧敷窓が設えられていることなどが挙げられます。特に棧敷窓は、他の町並みに類を見ない日野独特の設えです。

時代や人びとの生活様式の変化を経てなお、変わらぬ景観が日野町の歴史を物語っています。